

良材を求めて スウェーデン レクサンド市に部材工場 トモク ヒュース アーバー

トモク ヒュース アーバー 松岡 久之

TOMOKU HUS AB

スウェーデンの特徴はと聞かれて、まず思いつのは「極寒の地」です。

そんな北の国に、東京でしか生活したことのない人間が移り住んできました。スウェーデン ハウスの現地工場であるTOMOKU HUS ABに家族ともども赴任してきたからです。

約半年がたち、ようやくこちらの生活にも何とか慣れてきました。

TOMOKU HUS AB (読み…トモク・ヒュース・アーバー；ヒュース…スウェーデン語で「家」という意味、アーバー…スウェーデン語で「株式会社」の略)は、スウェーデンのストックホルムから北西に270kmほどのところのダーラナ地方のシリアン湖の近くにあり

ます。このあたりの地方は、スウェーデンの古くからの民族伝統が色濃く残っているところ



レクサンドの教会

人はここを「スウェーデンの故郷である」とも言っています。シリアン湖のほとりにあるレクサンド市は北海道当別町と、モーラ市は旭川市とそれぞれ姉妹都市提携を結んでおり、毎年交流を深めています。

この現地法人、TOMOKU HUSはトモク、スウェーデン ハウス、三菱商事の三社が設立した会社です。ここでは、スウェーデン産の堅く締まった針葉樹を使い、壁パネルなどの良質な部材を生産し、40フィートのコンテナに載せて、日本に向けて発送しています。100%スウェーデンハウス向けの住宅部材を生産しており、スウェーデンハウスの販売に合わせて、毎年増産態勢にあります。

1996年には第2工場を新設、最新鋭の機械を導入しました。97年中にはさらなる投資を計画しています。

スウェーデンの住宅新築戸数は4千戸とか6千戸程度といわれておりますが、このところ非常に低迷が続いております。不況で倒産するメーカーもかなりあるようです。

スウェーデンは総人口が850万人と少ない上に、住宅の耐久性が高いので、建て替え需要が少なく、国内の住宅市場は低迷、住宅産業自体も不況に直面しております。

その中でTOMOKU HUSは地域と一体となった企業運営を心がけています。とくに、現地の安定した雇用の確保という点では、現地に対して責任があると思っています。ここ数年、スウェーデンでも失業率が高くなり、とくに若い層の就職率の悪化が問題になっています。そういう状況の中でTOMOKU HUSの存在は雇用の面のみならず、周辺地域の産業の活性化にも密接な関わりをもっています。

RED WOOD と WHITE WOOD

TOMOKU HUSの立地する場所は、ダーラ川のほとりにあって、以前にも製材工場があったところで、隣接地にもスウェーデンでも屈指の有力製材工場があります。

この地方は古くから林業が盛んだったところです。現在では木材の運搬はトラック輸送が普通ですが、当時は船で木材を曳いて運搬していたようです。そのためか、スウェーデンにある多くの製材工場は河川や湖沼に面して建てられています。

スウェーデンの地図を広げて見ると、無数の湖沼と河川があります。氷河の削り取った跡が北西方面からバルト海に向かって、南西方向に筋となり、それが川の流れになっていることが分かります。

バルト海に面したSUNSVÄLなどに大きな木材産業があるのは、このような背景があるためと現地の人から説明を受けました。

スウェーデン産の木材の樹種は、RED WOOD（スウェーデン語で FURU：フル、パイン材）と WHITE WOOD（スウェーデン語でGRAN：グラン、トウヒ系）が多く生産されています。スウェーデンの土地の3分の2は森林で、80パーセントが針葉樹、20パーセントが白樺を主とする広葉樹です。

ここTOMOKU HUSが立地するダーラナ地方は比較的パイン材が多く分布していますが、森を一見したところ、この2樹種だけでなく、白樺も結構目立ちます。森林は計画的に施業されており、車で走ってみると、樹木の年代の違いがハッキリと認められます。伐採方法はほとんどが皆伐ですが、親木を残して、天然

下種による更新も一部に見られます。白樺は成長が早いのか、先に成長して目立っているように感じられます。2次植林もところどころに見られます。

山は比較的なだらかで、地表に露出している岩が目立ちます。伐採に関しては、すべて特殊な伐採車両を使用しています。伐採現場では、伐採と枝払いを1台の車両で同時に行い、この時点で製材用とパルプ用材を区分けしています。この車両が自分の背中に丸太を積んで、道路際まで運びます。ここに腕のあるトレーラーがやってきて、これを積んで製材工場に運びます。よくここまで機械化したものだと感心します。

伐採現場を見てみると、この木材産業がスウェーデンの重要な基礎産業であり、木材製品は最重要の輸出資源なのだと言われます。

自然との共存

ダーラナ地方に生活していると、森林がすぐ近くにあり、自然との共存を実感します。

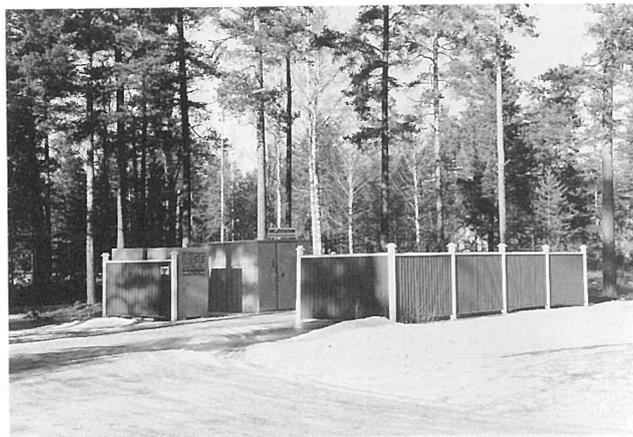
森には大鹿や鹿が棲息し、誰でも森に入ってブルーベリーやこけももなどを摘むことができます。ときには熊も出てきます。

ベリーを摘む時期になると、遠くポーランドからも車でやってきて、山ほど摘んで持って帰るそうです。スウェーデン人に気にならないか聞いてみると、「取り尽くせないから、問題ない」という答でした。しかし自然が荒らされるのはいやがっているようで、あまり面白くは感じていないのでしょうか。

緑がきれいな季節は、ベンガラ色の外壁と白い窓枠が空の青と緑に溶け込み、独特の雰囲気を出して



午後1時になっても太陽は低い 太陽が重たいという感じ
水温の方が気温より高いので湯気がたっている



町はずれにあるゴミ集積場
景観を配慮したファールレッドの柵

います。実にスウェーデンらしい風景です。

この塗料は、ファールレッドといわれ、近くの銅鉾山から出る副産物で作られた塗料です。これを荒削りの板材の上にたっぷりと塗って、耐久性を高めています。プレーナーをかけずに外壁面に使うことなどは、あまりに荒すぎて、日本では到底考えられませんが、このつや消しのイメージが太陽の光を反射しにくくして、独特の色彩効果を出しているのでしょう。

リサイクル

スウェーデンはリサイクルも発達しており、ガラス瓶はもとより、ペットボトルやアルミ缶はデポジットシステムになっており、マーケットの入口にはその返却口があります。

見ていると、ほとんどの人が買い物の前に空きボトルなどを持ってきて、返金伝票と交換して、その伝票で買い物をして帰っています。

アルミ缶は0.5クローネ（約85円）、これは溶解して再利用します。1.5リットルのペットボトルは4クローネでそのまま洗浄して再利用されます。ですから、町で売っている1.5リットルのペットボトルは分厚く、何回も使ったらしく傷が^{たくさん}沢山ついていきます。この辺はきれい好きの日本人にとって、ちょっといただけないかもしれません。

ワインのボトルも1クローネ（約170円）戻ってきますが、きまった形のものしか、機械が受けつけないようで、20本ぐらい入れても2クローネ（約340円）ぐらいしか戻ってこないこともしばしばです。機械の脇に使い方を説明した写真が貼ってありますが、なかなか理解がしにくく、無理やり突っ込む人がいるのは、ど

この国でも同じようです。

その他のガラス製品は透明と色付きに分けられており、色付きは、断熱材に加工されるようです。

町のはずれには、ゴミの集積場が設けられ、分別収集のための箱が並んでいます。もちろん、ここもベンガラ色の塀で囲ってあり、景観への配慮がうかがわれます。レクサンドは田舎ですが、多くの観光客が来るのでこんな配慮をしているのでしょう。

家庭から出るゴミは細かく分別しなければなりません。生ゴミはコンポストに、プラスチックは可燃ゴミに行きます。このほか、紙、電池、スチール缶等々。初めてきたばかりの時は、これが全然分からず、大変当惑しました。スウェーデン人に聞いてみても、まだ定着していないのか、まちまちの答が返ってきました。戸建て住宅から出るゴミは、生ゴミと可燃ゴミにそれぞれ分けられ、色の違うポリ容器に入れて道路際に出しておく、収集車が巡回して回収します。

バーサロペット大会

スウェーデンの冬は暗く寒いのですが、3月初めに開催されるバーサロペット大会は大勢の人々で賑わいます。この大会は、グスタフバーサ王が滑ったとされる90kmほどの道のりをノルディックスキーで滑る大会です。今年で73回目で、3月2日の日曜日に行われましたが、その1週間前から、前夜祭だの、プレ大会だの、ムードがだんだんと盛り上がってきます。

スウェーデンに来る前から話には聞いていましたが、実際に見物してみると想像以上です。とにかく「どこからこんなに集まったのか」で驚き、「こんなにもノルディックスキーをやる人がいる」ということでさら



バーサロペット スタート地点



氷の厚さは50~60cm 車も走れる

に驚きました。2万人ぐらいいるのでしょ、この人たちが一斉にスタートする光景は圧巻です。こんなにスキーで滑る音が大きいものだったかと思うほど、サーサーという音が耳に響きました。

滑る人たちはスタート直前まで防寒のヤッケを着ていますが、スタート直前にそれをゼッケン番号の付いたビニール袋に入れて、所定の柵の中に投げ込みます。ボランティアの人たちがこれを集め、トラックに積んでゴールのモーラまで運びます。もちろん家族ごぞつでの応援風景もあちこちに見られます。

エリート選手は1番から399番までのゼッケン番号をつけています。今年の優勝者は4時間28分で完走しました。朝8時にスタートして、昼にはゴールというのが標準ですが、12時間以内に完走しないと記録に残らないようです。

午前8時という、こちらではまだ真っ暗で、応援の人たちもまばらです。しかし、個人として完走したことの喜びは計り知れないといいます。途中にはいくつかチェックポイントがあり、所定時間内でそこを過

ししないと、そこでバーコードをもぎ取られるという事で、つまり、それぞれある速度以上で滑らないと失格になるという、かなり厳しいルールになっているということです。

ゴールには記念館があり、歴代の優勝者や記念品が飾られています。ゴール付近はなんと湖の中、臨時の駐車場も氷の上に砂を撒いて作ってあります。こんな所なのに駐車料金は、なんと20クローネ（約3,400円）も取られました。

本来ならば、「ウッディエイジ」では木材や林業のことを書くのが本筋ですが、何分木材が専門というわけでもないものですから、こちらでの生活を中心にご紹介しました。

東京にしか住んだことのない人間の、冬はマイナス20度以下にもなるスウェーデンでの初体験は、まだまだ沢山ありますが、これを通じてスウェーデンの印象を感じ取ってもらえれば幸いです。

(1997年3月20日)



第6回
のグランドフェア
~温もり、ふれあいを暮らしに~

木を暮らしに
活かす集い

■講演会「木を使った家づくり」

7月26日(土) PM
旭川市大雪
クリスタルホール

■展示会
「木質系建材展」

■相談室
「木造住宅建材相談室」

全国木のおもちゃ
パズル展
&
大型
木製遊具展

第2回
北海道親子
日曜大工教室
&コンクール
(小木工家具等製作)
7月27・28日
8月1・2・3日

第5回
北海道こども
木工作品
コンクール
(木工・レリーフ)

期日 **7月26日(土)~8月24日(日)**
AM9:00~PM5:00

会場 **北海道立林産試験場内**
「木と暮らしの情報館」

**ウッド・サマー
フェスティバル**
8月9日(土)・10日(日)

- ・木工教室 ・木っ端市
- ・地場産品の即売
- ・林産試験場内一般公開